

広開土王碑への酒匂景信ルートの考察

—明治期陸軍将校による手書き外邦図をてがかりに—

山近久美子・渡辺理絵・小林茂

1. アメリカ議会図書館所蔵の手書き原図

報告者らは 2008～09 年にアメリカ議会図書館で外邦図の調査を行った。当館は旧日本陸軍作成の 1880 年代の中国に関する手書き原図を多く所蔵している¹。このうち酒匂景信（1850-1891）作製の地図として「北京近傍図」、「従江蘇省江寧府至山東省兗州府路上圖」、「山東省第一図～第四図」（明治 15）、「従北京至牛莊旅行図」（明治 16）、「満州東部旅行図」（明治 17）を確認した。本発表では歴史地理学の立場から、酒匂の地図作成の概要と広開土王碑までのルートについて分析結果を報告する。

2. 酒匂景信作成の地図について

参謀本部は、有事に備え清国朝鮮沿岸の地誌地図作成を進めた。実地視察のため将校たちを現地に派遣したが、その一人として陸軍砲兵少尉酒匂景信を 1880（明治 13）年に清国へ差遣、1883 年に帰国を命じた²。一連の図は調査旅行の報告で 20 万分の 1 を基本とし、通行した道路と周辺の地形を描き、距離は行進の速力から測った。着色図で集落規模、軍事施設、史跡も記す。標高は目算だが、後の清国二十万分一図や假製東亜輿地図に採用され、酒匂作成地図は地図史上重要な役割を果たした。

3. 広開土王碑周辺地図の詳細

広開土王碑文将来者である酒匂の現地への経路は伝えられていない³。しかし「満州東部旅行図」には西は奉天、蓋州から東は鴨緑江、碑のある洞溝までが描かれる。この図の分析から、酒匂の現地への経路はこれまで考えられていた鴨緑江を遡航したものでないことがわかる。また碑発見に関わる現存最古の記録である「碑文之由来記」⁴は、図と比較すると將軍塚、満浦城、高山城などが一致する⁵ことから、原文の内容は酒匂による可能性が高い。参謀本部は外邦の政誌地理に関する類纂彙輯も行ったが、酒匂自身も朝鮮半島への関心は強かった。図には明治 17 年 6 月砲兵大尉酒匂景信と記され、提出された時期と当時の位階を裏付ける。一連の手書き原図は、これまで知られていなかった酒匂の旅行の実態を伺わせる資料として価値を有する。

¹小林茂・山近久美子・渡辺理絵 2008 「初期外邦図の作製過程と特色」 2008 年人文地理学会大会研究発表要旨、42-43 頁。山近久美子・渡辺理絵 2008 「アメリカ議会図書館所蔵の日本軍将校による 1880 年代の外邦測量原図」 日本国際地図学会平成 20 年度定期大会発表論文資料集、10-13 頁。

²広瀬順皓監修 2001 『参謀本部歴史草案』第 1～7 巻、ゆまに書房。

³佐伯有清 2005 「広開土王碑文将来者の伝記拾遺」『日本古代史研究と史料』青史出版。

⁴武田幸男 1988 「「碑文由来記」考略」『榎博士頌寿記念東洋史論叢』汲古書院、277-296 頁。

⁵ただし高山城は場所がちがう可能性がある。

広開土王碑への 酒匂景信ルート の考察 —明治期陸軍将校による 手書き外邦図をてがかりに—

山近久美子（防衛大学校）
渡辺理絵（日本學術振興会特別研究員（PD）筑波大学）
小林茂（大阪大学）

第60回朝鮮学会大会 於天理大学 2009. 10. 4.

発表の目的

- 歴史地理学を専門とする発表者らは、旧日本軍が作製した外国地図「外邦図」を研究する中で、これまで考えられてきた外邦図測量開始より古い年代の手書き地図の原図を発見した。
- アメリカ議会図書館所蔵の1880年代の原図は、中国、朝鮮半島、台湾を対象にしており、その中に**広開土王碑（好太王碑）**拓本招来者で知られる**酒匂景信作製の地図**を確認した。
- 本発表では、酒匂作製地図の概要と広開土王碑へのルートについて報告する。

アメリカ議会図書館調査

- アメリカ議会図書館(LC) ワシントン,D.C.
- 1880年代に、中国大陸・朝鮮半島・台湾で日本軍将校がおこなった簡易測量による手書き原図を確認



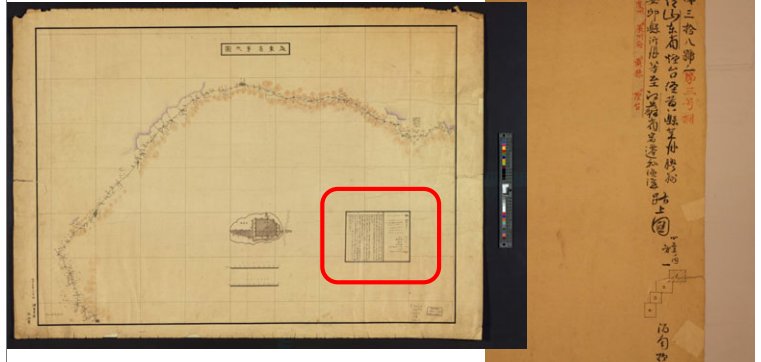
Geography and Map Reading room 書庫
アメリカ議会図書館マディソン館

LC所蔵1880年代作製の外邦図

- 中国関係236点 朝鮮半島関係109点(調査済)

酒匂景信 山東省第一図(1882年3月製)
縦68×横96cm

山東省第一図 裏書

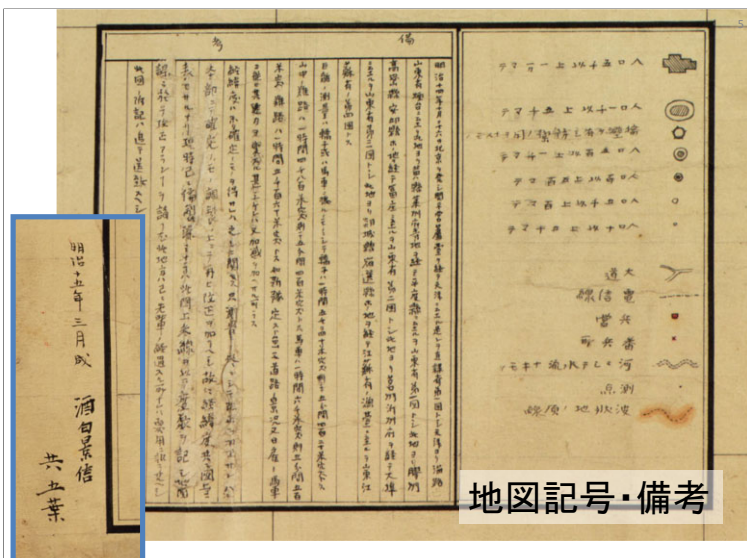


明治期陸軍将校による地図作製

◆日清戦争以後の臨時測図部による外邦図作製の 前段階

- 1878年(明治11) 参謀本部設立
参謀局長の任は機務密謀を参画し、平時にありては地理政誌を審らかにする
管東局[樺太、満洲、カムチャッカ、シベリアを兼]
管西局[朝鮮より清国沿海を兼]
- 1879年(明治12) 管西局長は清国朝鮮沿岸の地誌並に地図を詳らかにし、有事の日に当てその参画の図略に供するは目下緊急の用務とし、その為有為の将校若干名を清国に差遣

『参謀本部歴史草案』より



地図記号・備考

1879年(明治12)頃の派遣将校による地図作製

派遣将校名	派遣時期	駐在地・派遣地域	成果・図番号
島 弘毅	1877年4月～1881年4月	北京(1879年12月時)	満州紀行付図
伊集院兼雄	1879年7月～1881年10月 1882年8月8日～	牛莊(1879年12月時)	23号(M13)、7号(M14)、24号(M15)
花坂 円	1879年～	北京(1879年12月時)	6号(M13)、49号(M13)、(M15)
山根武亮	1879年～ 1882年8月8日～	天津(1879年12月時)	32号(M13)、39号、42号、10号(M13)
田中謙介	1879年～	福州(1879年12月時)	70号
島村干雄	1879年～	広東(1879年12月時)	67号(M17)
小泉正保	1879年～	漢口(1879年12月時)	11号
海津三雄	1879年～	朝鮮国に差遣 (1879年12月時)	京13号、京33号、 元1号、
斎藤 幹	1880年2月20日～	北京に差遣	36号(M14)、88号

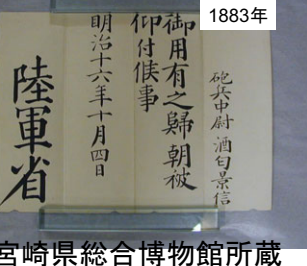
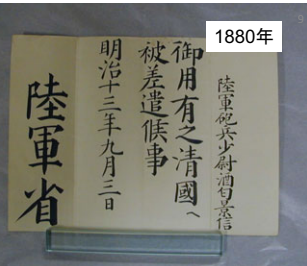
広瀬編2001『参謀本部歴史草案』ゆまに書房およびLCでの調査により作製

1880年(明治13)頃の派遣将校による地図作製

派遣将校名	派遣時期	駐在地・派遣地域	成果・図幅
梶山鼎介	1880年3月～1882年7月	清国公使館付	
小川又次	1880年4月21日～	北部(3か月)	10号(M13)
益満邦介	1880年4月21日～	南部(3か月)	20号(M13)
田中謙介	1880年7月18日～	厦門、泉州	70号(M15)
美代清濯	1880年7月18日～12月7日 1882年7月24日～	厦門、泉州	47号(M16)
玉井隴虎	1880年10月6日～1883年 12月	北京	77号(M14)、84号、北 京近傍図
酒匂景信	1880年9月3日(差遣命令) ～1883年10月4日(帰国命 令)	北京	25号、38号(M15)、 48号(M16)、74号 (M17)、北京近傍図
小田新太郎	1882年7月24日～	清国へ差遣	55号(M16)

広瀬編2001『参謀本部歴史草案』ゆまに書房より作製

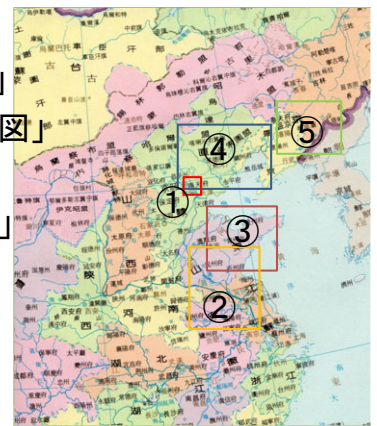
酒匂景信 と辞令



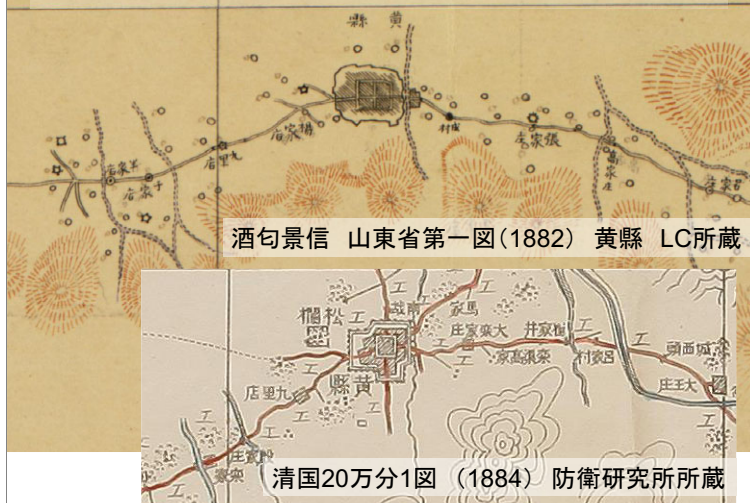
宮崎県総合博物館所蔵

酒匂作製路上図一覧

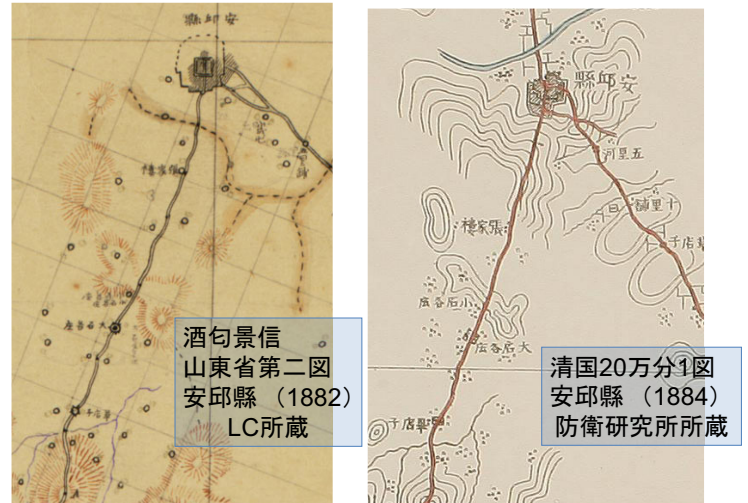
- ①「北京近傍図」(1881)
- ②「從江蘇省江寧府至山東省兗州府路上圖」
- ③「山東省第一図～第四図」(1882)
- ④「從北京至牛莊旅行図」(1883)
- ⑤「満州東部旅行図」(1884)



手書き原図の役割 印刷地図との比較



手書き原図の役割 印刷地図との比較

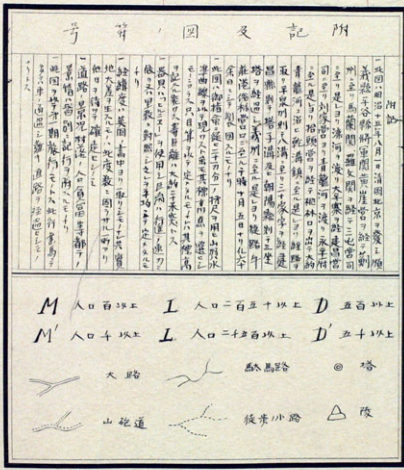


「從北京至牛莊旅行圖」(1883)

酒匂自身が、「さきつ」と呼ばせていた可能性

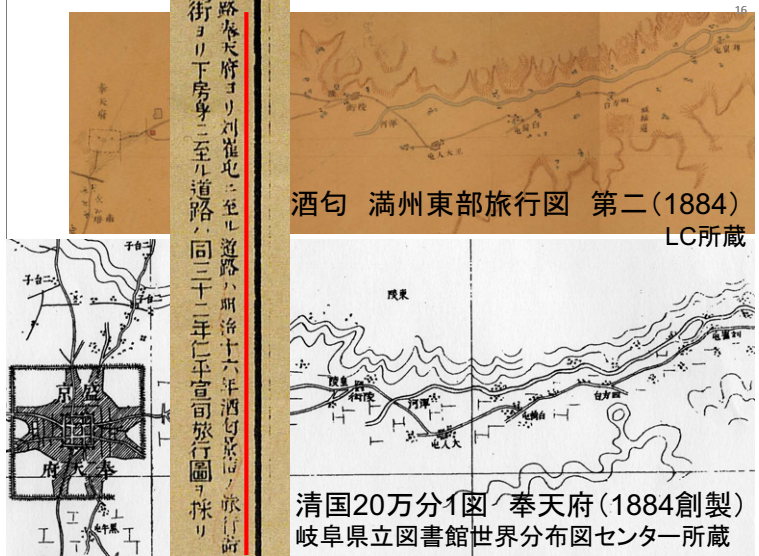
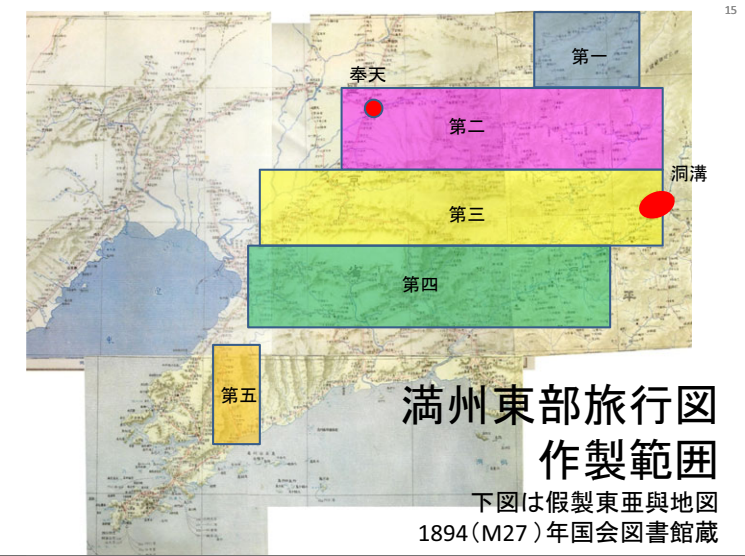
明治十六年一月

牛莊



滿州東部旅行圖(1884)地図目録

図名(巻名)	図別名	作成者・刊行所	縮尺	発行年	法量	点数	縮尺	請求番号	表書	備考
滿州東部旅行圖	滿州東部之圖第一	酒匂景儀 拓兵大尉	1:100,000	明治17年(1884)年9月	西77°59'南78.5°E	190	1:100,000	G7822.M 2P2 1884.43 Vault	海龍城 柳河城 山城子 遼陽河路 七十四号の三 滿州東部旅行圖 明治十六年 酒匂景儀 番号 柳兵五枚	一枚であったものが二枚に分断されている多彩色
	滿州東部之圖第二				2-1/78°59'5 2-2/78°59 2-3/78°59 2-4/77.8°59 2-5/78°59			G7822.M 2P2 1884.43 Vault	遼化縣 汪清辺門 新義 遼寧城 平安山 寧子宮 興寧城 奉天府 遼陽城 七十四号の三 滿州東部旅行圖 明治十六年 酒匂景儀 番号 柳兵五枚	一枚であったものが五枚に分断されている
	滿州東部之圖第三				3-1/78.8°68.8 3-2/78°70.2 3-3/78°70 3-4/78°70 3-5/77.8°68.8 3-6/77.8°68.8			G7822.M 2P2 1884.43 Vault	四十九度五十分子 今安城 桓仁城 城原 柳河辺門 遼陽城 寧安縣 朱旺古城 委子 七十四号の三 滿州東部旅行圖 明治十六年 酒匂景儀 番号 柳兵五枚	一枚であったものが六枚に分断されている
	滿州東部之圖第四				4-1/78°60.6 4-2/77.8°61 21.2 4-3/78.2°60.8 21.3 4-4/78°60.7 4-5/78°60.7 4-6/77.8°59.2	21.2 4- 28		G7822.M 2P2 1884.43 Vault	四十九度五十分子第三 四十九度三十分子 賓州縣 永固縣 義州縣 安東縣 鳳凰縣 龍王廟 遼陽城 遼州城 七十四号の四 滿州東部旅行圖 明治十六年 酒匂景儀 番号 柳兵五枚	一枚であったものが六枚に分断されている
	滿州南部之圖				北/50.2°E 66°E 50°46'		1:100,000	G7822.M 2P2 1884.43 Vault	安子前 七十四号の五 滿州東部旅行圖 明治十六年 酒匂景儀 番号 柳兵五枚	この図は遼州より遼州に至る道の遼寧 遼口の南より東南に遼寧省をへて安子前に至るものなり 常に驛長の通信路とす この図は工兵中野倉社氏の遼州 遼陽口に至るものなりとの記載あり 他に大東山脈、嶺、嶺について注記あり

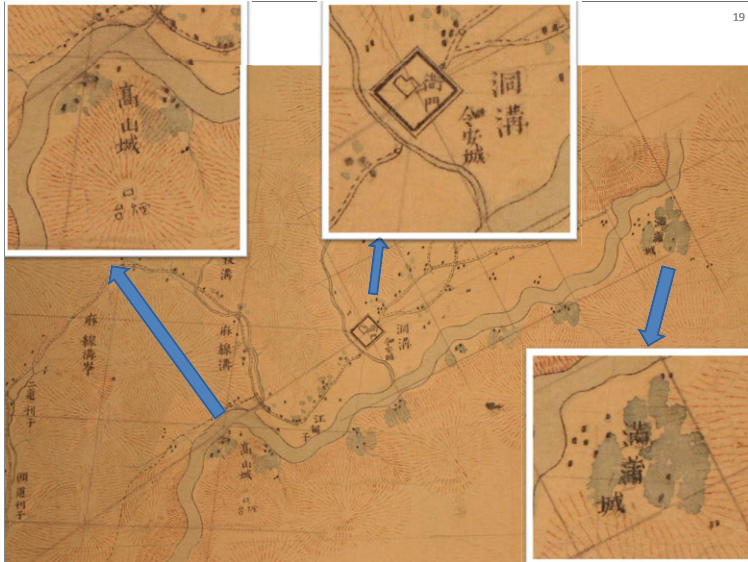


「碑文之由来記」

横井忠直『高句麗古碑考』1884所収

- 酒匂が帰国後参謀本部に提出した報告書のうち、広開土王碑に関する部分を抜粋したものとされる

碑文のある所ヲ洞溝ト云ヒ鴨綠江ノ上流九連城ヨリ凡八百里ニシテ此江ノ北辺ニアリ長サ十二三里幅三四里ノ平地ニシテ中央ニ周圉五里余ノ古土城アリ内ニ一小家屋在リ懷仁県ノ分官衙ヲ設ク城外人家散在シテ一般ニ数フル時ハ凡四百五十戸アリ古名ヲ令安城ト云フ朝鮮ト一江ヲ隔テ高山城及滿浦城ニ相對ス此辺数百ノ古墳アリ皆石柱ヲ地下ニ立テ石ヲ以テ疊積ス土人ニ問ヘハ高麗墳ト云フ想フニ昔日ハ一都會ナリシカ如シ

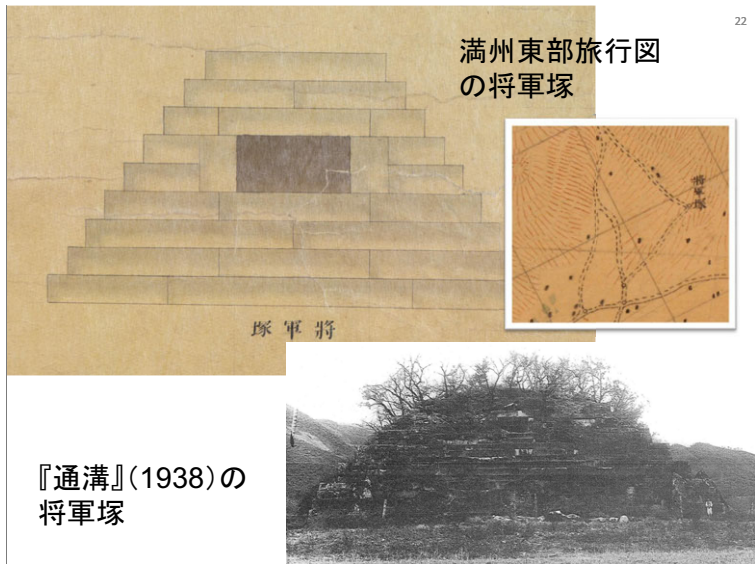


- 『東國輿地勝覽』(1530)[江界都護府]
 満蒲鎮...在府西一百二十八里石城周三千一百七十二尺高五尺有兵馬
 高山里堡...在府西一百二十五里石城周一千一百六尺高四尺有兵馬僉節制使營又有軍倉
- 『満州誌草稿』(1911)[輯安縣(通溝)]
 通溝ハ安東縣ヲ距ル東北九十八里強ノ上流ニ在リ対岸ハ朝鮮松山鎮ニシテ下流四里強ハ高山鎮東五里強ニ朝鮮満浦鎮アリ東西北ハ山ヲ繞ラシ高勾麗舊都ノ地ニシテ市街ハ東西ニ長方形ヲナシ

「碑文之由来記」の記載

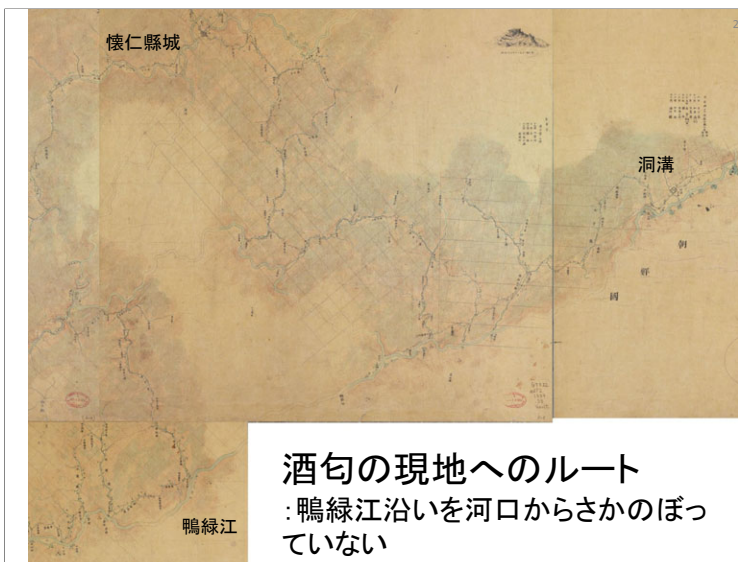
碑: 碑石ノ位置ハ此令安城ヨリ東凡四里許江辺ヲ去ル三里余ニメ山脈ヨリ下流スルー水路ニアリ

將軍塚: 其東方山下ニ一大古墳アリ將軍塚ト云フ其廣大ナル実ニ云フ可カラス其一斑ヲ挙グレハ其地上ニ出ル■一丈七尺ニメ二階アリ土人曰ク地下又幾層階アルヲ知ラスト上階ノ石門ヲ入レハ内部ニ二丈四方ニメ其高サー丈四尺皆大石ヲ以テ置積ス其柱石及桁石ハ一丈四尺余ニメ三尺二寸ノ四角柱ナリ

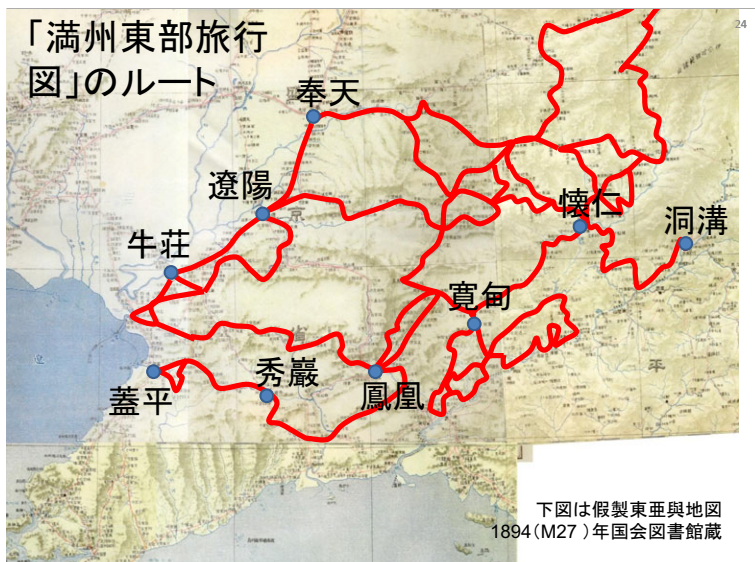


満州東部旅行図の將軍塚

『通溝』(1938)の將軍塚



酒勾の現地へのルート
 : 鴨綠江沿いを河口からさかのぼっていない



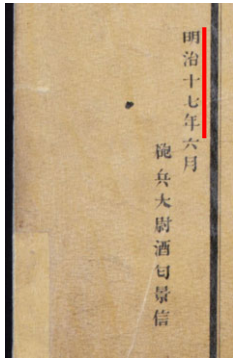
「満州東部旅行図」のルート

下図は假製東亜輿地図 1894(M27)年国会図書館蔵

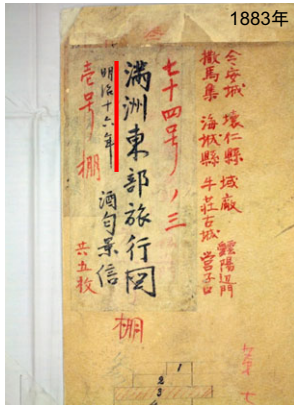
満州東部旅行図

左: 図中本人記載は提出年を記入
 右: 裏書は後の整理時のもので、調査年を記入

1884年

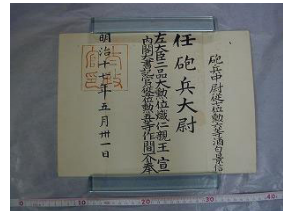


1883年

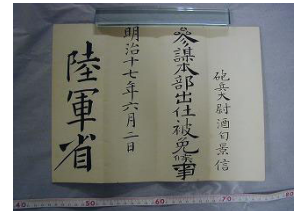


1884(明治17)年6月提出時期に関する辞令

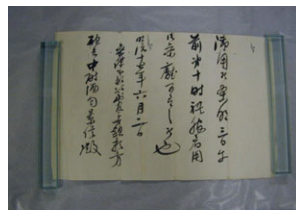
5月31日砲兵大尉昇任



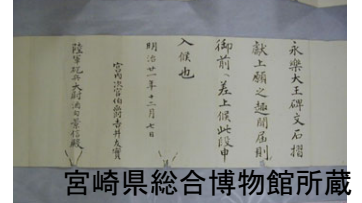
6月2日参謀本部出仕被免



6月2日付「3日に礼服用着来庁」指示



1888(明治21)年永楽大王碑石措献上



宮崎県総合博物館所蔵

朝鮮地域への関心

『参謀本部歴史草案』より

1883(明治16)年酒匂より参謀本部長へ嘆願書

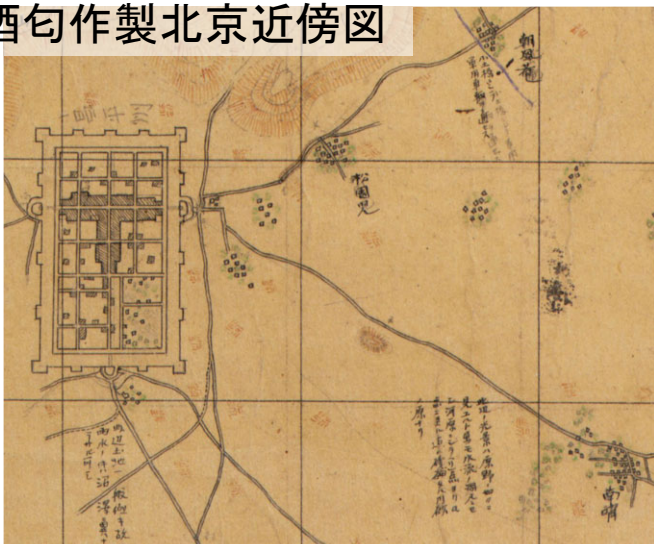
- 清韓両国界ナル鴨緑江筋ヨリ満州内部ノ諸要港ニ達スル大小道路ハ勿論河川山形等逐一実査仕候処、...
- 僅カニー江水ヲ隔テタル韓朝鮮内部ノ実況ヲ察知スルニ由ナク、又是レヲ探偵スルハ他日ノ為メ欠ク可カラザル必要タルヲ察シ、...
- 或ハ高山ニ登リ、或ハ遠方ニ退キ杯シ種々考察ヲ下シ、是ヲ偵察セントセシモ...
- 当港(牛荘)ヨリ義州府ヲ経、陸路韓京ヲ経テ帰朝...ノ義ヲ奉嘆願候次第第二御座候

報告方法

『参謀本部歴史草案』より

- 伊集院兼雄: 1880年(明治13)2月24日工兵中尉は、天津を発し、牛荘に駐在し海城、復州、金州を経て大連湾の景況を審らかにし該地の物産は、湾の広さなどを巨細に探偵し、旅順城に至り直に牛荘に帰るべし。総て経過した地の見取図並びに報告書を内訓に基づき至急当本部に送呈すべし。
- 小田新太郎: 1882年(明治15)7月24日 工兵中尉清国(鎮江)へ差遣。其の任務たる諸国の情状を探視偵察するものにして单身茲に従事する三年其の間数州を遍歴し兼て沿道の地誌を編し地図を製し

酒匂作製北京近傍図



満州東部旅行図と印刷図の比較

満州東部旅行図 第三洞溝周辺(1884年6月)



LC所蔵

輯製三十万分一之図
 通化縣(1895年4月製版)
 大日本帝国陸地測量部



国立公文書館(日本)所蔵

まとめ

31

酒匂景信が1883(明治16)年に広開土王碑所在地に行った際の提出地図を確認した。同時に酒匂が、大陸で行った地図作製作業の詳細が明らかになった。

- 1880年9月3日清国派遣命令、10月6日派遣
- 1881年「北京近傍図」作製
- 「従江蘇省江寧府至山東省兗州府路上圖」作製
- 1882年3月「山東省第一図～第四図」提出
- 1883年1月「従北京至牛莊旅行図」提出
10月4日帰国命令
- 1884年6月「満州東部旅行図」提出
- 1888年10月宮内省で解読 12月永楽大王碑石摺献上

32

- 碑所在地へのルートは、鴨緑江をさかのぼったのではなく、牛莊を拠点に、懷仁縣城を経由したと考えられる。
- 地誌と地図の提出が義務であることから、1884年に提出された地誌の存在は確実である。
- 「碑文之由来記」の現地情報は地図と一致することから、酒匂の提出した地誌の内容が「碑文之由来記」に使用された可能性は高い。
- 今回発見した地図群は、地図史上大きな意義を持つとともに、酒匂直筆の資料として、研究へ貢献できるものである。

主要参考文献

33

- 濱田耕策「高句麗広開土王陵碑文の虚像と実像」日本歴史304、1973、pp.80-98
- 佐伯有清『研究史広開土王碑』吉川弘文館、1974
- 李進熙『広開土王陵碑の研究』増訂版、吉川弘文館、1974
- 佐伯有清『広開土王碑と参謀本部』吉川弘文館、1976
- 王健群『好太王碑の研究』雄渾社、1984
- 三上次男他『シンポジウム好太王碑』東方書店、1985
- 王健群他『好太王碑と高句麗遺跡』読売新聞社、1988
- 武田幸男「「碑文之由来記」考略」『東洋史論叢』汲古書院、1988、pp.277-296
- 鈴木靖民他『広開土王碑と古代日本』学生社、1993
- 東潮・田中俊明『高句麗の歴史と遺跡』中央公論社、1995
- 佐伯有清「広開土王碑文将来者の伝記拾遺—酒匂景信と乃木希典の日記—」『日本古代史研究と史料』青史出版、2005、pp.3-30
- 徐建新『好太王碑拓本の研究』東京堂出版、2006
- 東潮「高句麗王陵と巨大積石塚」朝鮮学報199-200、2006、pp.1-36